



2024-25年度 上田ロータリークラブ

- 会長 金子 良夫 ●副会長 柳澤 雄次郎・三井 英和
- 幹事 酒巻 弘 ●会報委員長 小林 浩太郎

第2981回例会 (令和7年4月21日)



ホームページQR

[会長挨拶]

金子 良夫 会長



ロータリーの慣例の中で、シカゴクラブ草創期に始められ現在まで続いている慣例があります。今日はそのお話しをします。

ポール・ハリスは会員の助言に耳を傾け、良い提案はどしどし採り入れるという柔軟な態度をとったため、ロータリークラブは、ますます盛んになって行きました。今日われわれが日常行っているロータリーの慣例は、そのほとんどが草創期のシカゴ・ロータリークラブの会員が考え出したものです。

(1) 例会で歌を合唱する慣例

この慣例は創立会員ハリー・ラグルスの提案です。1905年の秋、クラブが一瞬気まずい雰囲気になったとき、彼は「諸君、歌おうじゃないか」とやり、クラブが非常になごやかになったそうです。それから例会に歌うのが慣例になりました。

(2) 1業種1会員制

数年前に撤廃されてしまいましたが、草創期は、同業者内で対立し、親睦の輪を乱すことがあったようです。それで取り入れられたようです。

(3) クラブ内における政治および宗教上の論争の禁止

これは現在でも連綿と続いている慣例です。

(4) 会員相互にファーストネームで呼び合う慣例

ファーストネームで呼び合うのは、欧米では定着したようです。我が国、我がクラブではご承知のように定着していないようです。日本人同士はファーストネームで呼び合うのは気恥ずかしいと思うのは私だけでしょうか。

(5) 会務に関する互譲の精神

役員に選ばれることが名誉なことであるとすれば、会員の名誉欲をそそることになりかねない。この悲しい人間の本性に挑戦し、役員は1年交代、健康上の理由以外は断われない。

「ロータリーにNOはない。」喜んで役職を引き受けろというのは、この慣例の表れだと思います。

(6) 卓話の慣例

この当時のロータリー運動の中心は、なんといっても会員相互間の互惠主義、すなわち職業上の相互扶助にあったのです。会員は、職業上の問題などを持ち寄り話し合いました。これが例会におけるテーブルスピーチ・卓話の慣例となったのです。

(7) 出席義務

彼らは出席をクラブ活動の根本的義務と考え、4回連続して例会出席を怠ると会員資格を失うべき旨を申し合わせました。これは今日の世界共通のクラブの原則となりました。しかし、メーキャップという緩和規定が生まれ、さらに長期にわたる健康不良の場合は出席が免除され、また会員歴20年以上65才となると出席免除される規定へと繋がっています。

(8) 会合の時間厳守

これは我がクラブにおいても続いている慣例です。12時半に始まり1時半に例会は終了し、例会は時間厳守しています。

(9) スマイルボックス

初期の頃は、「Finebox」(罰金箱)と呼ばれていました。罰金ではなくてスマイルして喜投しようということになり、「スマイル箱」となり我が国の「ニコニコボックス」となったようです。

(10) 会員名簿に写真を挿入する慣例

上田ロータリークラブでは、会員名簿、クラブ計画書にもメンバーの写真入りでありこの伝統は守られています。

(11) 例会で食事をする慣例

シカゴクラブ第7回例会の順番に当たっていたアル・ホワイトは、次の例会はホテルにしようとした。この時が食事付例会の最初であるが、一度食事を共にしたら、人々は互いに気分が解放的になって、親睦の実が大いにあがりました。その後各クラブもこの慣例を継承するようになり、現在に至っています。従って『ROTARY』の語源となった各人の職場巡りの例会は、第7回例会からは食事付、ホテルの例会となったわけです。

このように当時の慣例のほとんどが今日まで連綿と続けられています。

[ゲストスピーチ]

山家神社 宮司 押森 慎 様

◆表彰

職業奉仕賞 表彰状を金子会長より押森様に贈呈させていただきました。



◆紹介

宮川 泰さんより、押森様のご紹介をいただきました。

平安時代から続く山家神社の歴史、押森様が54代宮司として伝統を継承しつつ、クラウドファンディングやSNSを活用して地域の活性化に尽力されているとのことでした。



押森様より、神社の奥宮である四阿山の山頂の再建、耕作放棄地の活用、雅楽会の活動、コロナ禍での真田の仕掛け花火の復活、御柱祭の実施など、地域との共生と伝統の維持に向けた取り組みをお話いただきます。

◆スピーチ

皆さんこんにちは、山家神社の54代目の宮司をしております押森と申します。本日はこのような貴重な機会にお招きいただきましてありがとうございます。



先代は役場職員をしながらの兼業神主をしておりまして、地方の田舎のお宮でなかなか神主1本で生計を立てていくというのは難しいと言われている中で、挑戦を続けまして今年でもう11年目となっております。

山家神社には奥宮というのがありまして標高2,354mの上田市で一番高い山になってるかと思いますが、四阿山の山頂に山家神社の奥宮がございます。

神川について、よく皆さん名前を聞くかと思いますが、なぜ神川と書くかといいますと山家神社の神様、白山大権現様が鎮まる恵みの水であるということで、神川の名前の由来は山家神社から来ているものでございます。

この山頂がだいぶ老朽化が進んでいるときに、私がちょうど戻ってきたときにもう山頂のお社が限界だということがありまして、そんなときにみんなは「石にすればもう手がかからなくていいんじゃないか」というお話が多々あったんですけれども、私はやはり人の心で、伝えていきたいという思いで、木造に戻すことによって、みんなで荷揚げボランティア募集して建て替えとかをしております。

山頂は元々、当時も多分ずっと形が残って大丈夫だろうと思われたコンクリートブロック作りも、もう50年もすれば、このような形になってしまいますので、でしたらもう20年スパンでみんなで木を運んで、建てることでお社の歴史を伝えていこうというようなことをしました。

鳥居をみんなで運んで建ち上げたり、これは山頂の竣工した新地の写真となっております。その他、神社の周りには耕作放棄地がたくさん増えてきましたので、昭和20年頃に途絶えてしまった御田植祭というお祭りがあるんですけれども、子供たちが農地に携わらなくなってきたので、こういった機会を作りたいということで、いろんな取り組みを

しております。

先ほど宮川さんの方からも紹介いただきましたけども、神社の蔵の中から、昔の楽器が出てきましたのでまずですね自分の同級生を動員して、先生やYouTubeとか見ながら笛を習って、「雅楽会」という形で活動しております。

県外の人から、こんなにも宮司さんが前に来てやってる神社はないっていうふうに驚かれたりするんですけども、本当にがむしゃらにやってまいりました。この度このような貴重な賞をいただきまして、今までのつらかったこととか、不安だったこととか、結構何か挑戦すると風当たりが強かったりもするんですけども、そんな進めてきたことを応援していただけるような気持ちで、とても今日嬉しく思っております。本当に皆さんありがとうございます。

おかげさまで更なるやる気をいただきまして、今年もいろいろと挑戦していきたいと思っておりますので、今日はこれから進めていく事業と、今までやってきたことを少しお話させていただければと思います。

自分の行動の理念としまして掲げているのが、「郷生」と「維時」という言葉を常に持って行っております。「郷生」という文字ですけども、本来は共に生きるっていう字をふるさとの「郷」に変えて「郷生」としております。「維時」の方はですね、こちらは本当は「持つ」っていう字なのですが、これを「時」と変えております。

意味合いとしては故郷とともに生きる、そして故郷を生かすですとか、故郷に生かされる。そういう願いを「郷生」という言葉に込めております。こちらは私が作った言葉になります。「維時」という言葉はもう昔からあるものでございまして、神社とかの江戸時代から、建て直した時の記録で、その残されていた札などに、この「維時」という漢字が使われてまして、時を繋ぐ。新しく直していくことで未来にまた時を繋いでいくよ。という意味がある言葉でございまして。この理念でいろんな活動をさせていただいております。特にコロナ渦に入った時に、とても考えさせられる状況となりました。不安に包まれて先が見えない状況の中で、未来に伝えていきたいものは何かっていうのは大変考えました。そんなときに、やはり改めてこの「郷生維時」という心。地域が神社を通してですけども、ときにはみんなで結びつきをつけてみんなで守り合っていこうという心を伝えていきたいと思いました。

コロナの初年度は、地域のお祭りも縮小したり、例えば獅子舞は危ないからやめようという話になってきた中で、そうしますともう、良い面もあったとは思いますが、心の部分が伝わっていかなくなってしまっていて、みんなが下ばかりを向いてしまったので、明治の20年ころに合った歴史を紐解きまして、そのころ「真田の仕掛け」という、いわゆる仕掛け花火や、五加の灯籠といった上田地域の風物詩みたいなものがありまして、その中の「真田の仕掛け」を復活いたしました。

仕掛け花火も本当に何もない人間が、武舎煙火さんに突撃してお金が集まるかわからないんですけど、こういったことをやりたいので、花火やってくれませんかっていうことをお話ししたら、会員の上原さんに快諾いただいて、やるだけやましようということで、今実現をしているところでございます。

神社の真裏から花火を上げたりしております。独特なのは、クラウドファンディングを活用して行っております。

今まで私も、花火大会という大きな会社さんですとか企業さんがお金出してそれを見に行くだけだった花火なんですけど、クラウドファンディングを使うことで誰かのために上げる花火。自分があげた花火を見ることによって、横の人たちが喜んでる顔を見るっていうのが、双方向。みんなで出し合うので、お互いに感謝が生まれる、とてもいい仕組みだなと思って、今年でもう6年ぐらい継続して行っております。

双方向、上げてくれた人にも感謝しますし、喜んでくれてる姿を見ても感謝します。私自身、神社も感謝しますし、地域も感謝する。このいろいろな一方の繋がりが全部ここに繋がって、とてもいい空間が作れているなと思っております。

今年は9月20日に「真田の仕掛け」がありますので、機会があればぜひご覧いただければと思います。そしてまた一緒に盛り上げてくださる方がいれば、とても嬉しいと思いますので、よろしくお願いします。

またこの翌年には御柱祭というのを行っております。こちらは諏訪のお祭りでございます、大きな柱を引っ張って神社境内に建てるというお祭りがございしますが、元々私は大学を出てから諏訪大社に8年間奉職いたしまして、御柱ってかなり勇壮なお祭りですので、初めて人を見るともう、うわってぐらい引いちゃうぐらい勢いがあるお祭りなんですけど、不思議なことにこの中に入ってしまうと本当に楽しくみんなでよいさよいさって柱を引っ張る。人が結びつくお祭りだなと感じました。神事としては柱を立てるのがお祭りなんですけれども、実際には地域のコミュニティを作るといいますか、連帯感を作る非常に重要なお祭りだと感じてまして、山家神社の境内の諏訪社にこの御柱祭を建てるということを始めました。

これがコロナ2年目の年でございます、コロナで無くなったお祭りは結構たくさんあるんですけれども、新しく出来たお祭りっていうのはなかなかないということで驚かれたところでございます。また全国の御柱祭を調査した人がいまして、冊子を作った方がいるんですけれども、新しく御柱ができちゃったので、その冊子にまた追記しなきゃいけないってことで山家神社に来てお話された方がいます。こんなちょっと特殊なことも行っております。

実際には柱というのは4本柱を立てるんですが、普通は1年で4本立ててしまうんですけど、私達初めて御柱を何も無い中でやりますので、1年に1本、1の柱から立てて、2本3本で今年4本目の柱を立てることになっております。2年目からは自分たちの技術で、もう人力だけで木を立てるんですけども、安全確保しながら乗せて行うことができたり日々進化をしております。

また消防のラッパ隊の方たちとか、いろんな真田地域にとどまらず参加を呼びかけて協力いただいて、ようやく今年、願い叶って地域の小学校の協力も得られるようになってまいりました。やっぱり子供たちが地域でどんな思い出を作っていけるかが、また地域に戻ってくるきっかけであると考えております。ここから新しい歴史を作っていければと

感じておりますので、もし皆さんもお時間あれば聞きにきていただきたいのと、柱がどんどん大きくなってしまったので、去年なんかは人が少なくて動かなかったという事例もありますので、ぜひ動員をお願いできれば嬉しいと思います。

うちの真田地域は、どんどん人も減って子供の数も少なくなっています。特に自分の地域の自治会はもう、これだからやめよう。盆踊りとかもやめよう。となっていてしまうんですけど、私はやめようという中の盆踊りとかは、神社で独自で櫓を建てて続けております。

それはなぜかといいますと、子供のその小さい頃の地域での体験。おじいちゃんたちとの体験とか、そういったことがやはり地元に戻ってくるきっかけですとか、地元の思い出で何か貢献するきっかけに繋がっていくのかなと思っておりますので、効果としてはもう10年、20年先にしか現れないんですが、そういったことを戻ってきてからずっと続けております。

中町の神主さんからはよく「お前は金にならないことばかりやってるな。」っていうふうに言われてはいたんですけども、そういった継続が実はクラウドファンディングっていうのに繋がっております、やはりそういった活動を見てくれてた方が、ご支援をいただく形。今まではお金にならないけど価値のあるものがたくさん世の中にあるんですけど、そういったものを発信することで、いろんな協力が得られる仕組みを今整えております。最初本当に少ない人数で始めた御柱も、これだけ多くの方の協力をいただいてできていたりします。昨日一昨日と山家神社の例大祭があったんですけども、実はこの灯籠を持つのが12本あるんですけど、地域の周りは持つ方が順番で決まっていて、お年寄り1人のお宅がその当番がきたら、とても持てなくて、自治会でも、もうやめましょうって話になりました。

ですが、とてもいい風景、お祭りの風景なので、これは残したいということでこちらもクラウドファンディングで1本灯籠を持てる体験っていうチケットを出しまして、そしたら見事全部埋まるんですね。

地元の人たちからみれば、何でお金を出して参加するの？っていうぐらいなんですけど、地元でずっと続けていると良さが見えなくなってくる。外から見て、例えば私も今日ロータリーの会議に参加させていただいて、素晴らしいなと。歌を歌ったり和気あいあいとしていて新鮮さを感じるんです。でも地域で行くと、当たり前になってしまって、その新鮮さが気づけなくなるという部分がある中で、こうして多くの方が参加いただけることで、自分たちがやっていたことは、とても価値があることなんだ。という気づきになっていると思います。こういった失われそうなものをつなげていこう。時を繋ぐ精神で、新しい挑戦をしております。

あとは神社の中でミニ四駆大会をやったりですとか、バンド演奏をやったりと、人が集まる空間を作っております。今はいろんな世の中、楽しいところがありますけれども、昔は文化とか芸術とかいろんなものが集まるのが、神社仏閣だったと思うますので、そういった昔の精神にのっかって、いろんな挑戦しております。

最後になりますが、山家神社で節分祭を行っております。2月3日に行っておりまして、櫓を組んで大きく行っております。真田丸の放映があってから、その役者さんたちも来たいという声もありつつ、昨年もお二方が5日前ぐらいに行きたいということでご招待して、豆まきをしていただいておりますが、神社単体でやっていくにはもう厳しくなってきたかな。ということがございまして、もし皆さんの中で、ぜひ節分祭に関わってくださる方がいれば嬉しいなと思ってます。いろんなところに声をかけているんですが、2時から3時とか時間を決めて豆まきができ、何かの宣伝になったりする場所を、神社として提供できたらいいのかなと思ってます。

また来年は上田市合併の20年の節目になるかと思うますので、少し大きくやりたいとも考えてますので、もしご縁があれば、声掛けいただいて、地域と一緒に盛り上げていただけたらと嬉しく思います。簡単な拙い話になってしまいましたが、自分はこのような活動を行っておりますので、またいろんなご縁で皆さんとお会いすることもあると思いますが、今後ともよろしく願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

◆質疑応答

●桑原茂実さんから、御柱を1年ごとに立てる理由や方法について質問。

押森様が、毎年無理なく楽しんで結びつける形として、1年に1本ずつ立てる方法を採用していると回答しました。

●また、大河ドラマ「真田丸」以降、山家神社の参拝者の状況について質問。

押森様が、地道な活動により参拝者が増えており、地域外からの参拝者も多いと回答しました。

【委員会報告】 小熊 直人 親睦活動・家族委員会委員長
上田丸子合同コンペの結果報告と参加者への感謝。

5月18日に5クラブ合同コンペが開催され、申し込み締め切りが本日であることをアナウンス。現在5名が参加申し込み済み。

5月25日に家族旅行(山梨方面)が計画されており、4月24日(木)までに事務局への申し込みが必要。現在25名の参加申し込みあり。

6月29日にロータリーホームコンペを予定しており、来週中に案内を作成予定。



上田・丸子 RC 合同コンペが開催されました

4月20日、浅間高原カントリー倶楽部において、上田・丸子 RC 合同コンペが開催されました。ゲストに蓼科ロータリークラブのお三方もご参加くださり、盛大に行われました。コンペの結果につきましては、参加されたメンバーより口伝にてお聞かせください。



【幹事報告】

酒巻 弘 幹事

1. 米山奨学会

ハイライトよねやま 301号

2. 地区事務所

3月8日「第2回新会員セミナー」
アンケート結果について

3. (株)トミック 退任・就任のご挨拶

4. 例会変更 上田六文銭 RC 6月24日(火) 定受なし
小諸浅間 RC 5月1日(木) 定受なし
8日(木) 定受なし
22日(木) 定受なし
6月5日(木) 定受なし
26日(木) 定受なし



【ニコニコBOX】

田中 克明 委員長

飯島幸宏さん 石井懋人さん 伊藤典夫さん 上原文明さん 小熊直人さん 小幡晃大さん 金子良夫さん 窪田秀徳さん 桑澤俊恵さん 桑原茂実さん 小林秀茂さん 小山宏幸さん 佐藤倫さん 齊藤達也さん 酒井喜雄さん 酒巻弘さん 島田太一さん 春原宏紀さん 関啓治さん 田中克明さん 田邊利江子さん 保科茂久さん 三井英和さん 宮川泰さん 矢島康夫さん 柳澤雄次郎さん 横沢泰男さん



本日喜投額 27名 ￥ 27,000
累計 ￥1,569,000

【例会の記録】

司会：齊藤 達也 会場・出席委員

斉唱：ロータリーソング

●ゲスト紹介 山家神社 宮司 押森 慎 様

●会長挨拶 ●幹事報告

●メインプログラム 職業奉仕賞 表彰

山家神社 宮司 押森 慎 様

【ラッキー賞】

酒巻 弘さん(三井英和さんより ビール券大瓶4本分)
窪田秀徳さん(矢島康夫さんより

ギリシャ エギナ島のピスタチオとチョコレート)

【出席報告】

齊藤 達也 委員



	本日	前々回 (4/7)
会 員 数	52	51
出席ベース	50	50
出席者数	41 コロナ欠席0	42
出席免除(b) ()内は出席者数	4(2)	4(3)
出席免除(a)	0	0
メイクアップ ()内は Make up 後		1(43) コロナ欠席0
出席率	82.00	86.00

【次回例会予定】

5月12日(月) 慶祝

米山奨学生スピーチ 金 セハさん

(4月28日発行)

【会報担当】 小林 浩太郎 会報委員長